

# 確率(4)

【1】赤と青の2つのさいころを同時に投げ、出る目の和を求める。次の問いに答えなさい。

(1) 右の表は、2つのさいころの出る目の和をまとめたものである。この表を完成させなさい。

青 赤	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

(2) 次の確率を求めなさい。

① 出る目の和が7になる確率

出る目の和が7になる場合は6通りなので、確率は  $\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$

② 出る目の和が8以上になる確率

出る目の和が8以上になる場合は15通りなので、確率は  $\frac{15}{36} = \frac{5}{12}$

③ 出る目の和が偶数になる確率

出る目の和が偶数になる場合は18通りなので確率は  $\frac{18}{36} = \frac{1}{2}$

答え(2) ①  $\frac{1}{6}$       ②  $\frac{5}{12}$       ③  $\frac{1}{2}$

【2】1, 2, 3, 4, 5 の数字が1つずつ書かれた5枚のカードがある。

このカードを同時に2枚引き、カードの数の積を求める。このとき次の確率を求めなさい。

(1) 積が5の倍数になる確率

積をすべて求めると右のようになる。すべての場合の数は10通り。積が5の倍数になる場合は4通りなので、確率は  $\frac{4}{10} = \frac{2}{5}$

$1 \times 2 = 2$	$1 \times 3 = 3$	$1 \times 4 = 4$	$1 \times 5 = 5$
	$2 \times 3 = 6$	$2 \times 4 = 8$	$2 \times 5 = 10$
		$3 \times 4 = 12$	$3 \times 5 = 15$
			$4 \times 5 = 20$

(2) 積が9以下になる確率。

積が9以下になる場合は6通りなので、確率は  $\frac{6}{10} = \frac{3}{5}$

(3) 積が奇数になる確率

積が奇数になる場合は3通りなので、確率は  $\frac{3}{10}$

答え(1)  $\frac{2}{5}$       (2)  $\frac{3}{5}$       (3)  $\frac{3}{10}$

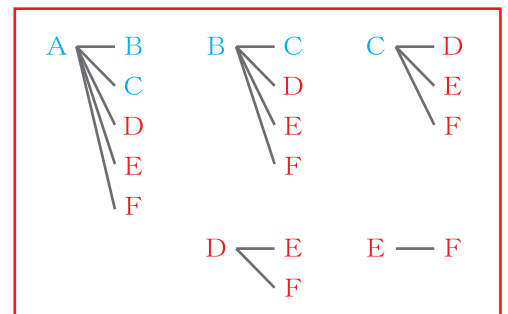
【3】男子A, B, C, 女子D, E, Fの6人の中から委員2人をくじ引きで選ぶとき、次の確率を求めなさい。

(1) 男子と女子が1人ずつ選ばれる確率

すべての場合の数は15通り。男子と女子が1人ずつ選ばれる場合は9通りなので、確率は  $\frac{9}{15} = \frac{3}{5}$

(2) 少なくとも女子が1人選ばれる確率

男子が2人選ばれる場合は3通りなので、確率は  $1 - \frac{3}{15} = \frac{12}{15} = \frac{4}{5}$



答え(1)  $\frac{3}{5}$       (2)  $\frac{4}{5}$